

## 幕末下総の名主家文書にみる初茸贈答

田川裕美<sup>1)</sup>・高橋 覚<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>千葉大学附属図書館

<sup>2)</sup>千葉県立房総のむら (元千葉県立中央博物館大多喜城分館)

<sup>1)</sup>〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

<sup>2)</sup>〒270-1506 印旛郡栄町龍角寺1028

<sup>1)</sup>E-mail: tagawah@office.chiba-u.jp

<sup>2)</sup>E-mail: stakahashi@b-mura.org

(受付日: 2020年10月31日, 受理日: 2020年11月5日)

**要 旨** 古文書のデジタルアーカイブの利便性を江戸時代後期の町野家文書から紹介すると共に、デジタル化された古文書画像は千葉大学学術リソースコレクション (c-arc) で入手できることを紹介する。この記事で紹介する文書では、下総国の犢橋村 (現在の千葉市域) で初茸が収穫でき、同地の領主であった旗本に献上されたことが記録されている。

**キーワード:** 初茸、*Lactarius hatsudake*

千葉大学附属図書館に「町野家文書 (まちなけもんじょ)」と呼ばれる一群の古文書が所蔵されている。江戸時代の町野家は下総国千葉郡犢橋村 (こてはしむら) (現千葉県千葉市花見川区犢橋町) の名主を代々務めた。古文書の現物は1957年に当時の町野家から千葉大学に寄贈されたものである。その後千葉市史編纂委員会の市史編纂にともなう整理・研究が行われ、その過程でマイクロフィルムに撮影した複製で近隣の文書館や博物館等における利用の便を図るといった運用がなされてきた。

同文書については既に『千葉市史 史料編8 近世』(1997年刊)に「犢橋村古文書目録」が公開されており、村落経営に関する主要な行政文書や一部の注目すべき事件等については、活字に変換した(翻刻)紹介がなされ、ひとまず研究が済んでいるものと目されてきた。

但し、この目録に列挙されている700以上の点数からすれば翻刻と解説が揃っているのは極々部分的である。

ところが最近「千葉大学学術リソースコレクション (c-arc) (<https://iiif.ll.chiba-u.jp/>)」として、インターネット経由でどこからでも閲覧可能なデジタル画像の提供がされるようになった。既に撮影されていたマイクロフィルム画像のデジタル化で国立歴史民俗博物館との連携事業によるものである。このデジタル化とインターネット経由の利便性によって、今後、多くの発見が引き出されることを願って、自然科学分野からも注目されるであろう資料を紹介しておきたい。

「千葉大学学術リソースコレクション (c-arc)」から取得可能な町野家文書デジタル画像は、デジタルコンテンツを活用した研究・教育・学習を実現するための教育研究基盤として利活用されることが期待されている。先行

研究成果によって基礎知識を得ておくこともでき、手掛かりになる翻刻も存在するので、古文書入門講座等の計画にも利用いただける資料と考えて紹介する。

さて、新たな翻刻とともに紹介する6点の資料は、いずれも千葉大学学術リソースコレクション (c-arc) <https://iiif.ll.chiba-u.jp/main/machinoke.shtml>の町野家文書のページから画像を閲覧できる。スマホを使ってもかまわないが、タブレットやPCといった画面の大きい端末の方が拡大して見ることに向いている利点がある。本稿掲載の文書画像は目印(サムネール)程度の大きさに縮小したものにしてしまっているが、ぜひ、千葉大学学術リソースコレクションの町野家文書のページから直接閲覧してみたい。

当該資料は町野家文書のページに横書きで一覧表示される文書名の左端に添えられている番号〔補-25〕、〔補-52〕、〔補-55-1〕、〔補-55-2〕、〔補-70〕、〔補-86〕、の6点で、既に前掲書の目録に活字で紹介されていた文書名でも、「初茸」という文字を見つけることはできていたものである。この文字と日付を表す文字に着目されれば、初茸の出荷可能であったのが、旧暦の

- (1) 9月7日〔補-25〕
- (2) 9月11日〔補-52〕
- (3) 8月23日〔補-55-1〕
- (4) 9月4日〔補-55-2〕
- (5) 9月12日〔補-70〕
- (6) 9月5日〔補-86〕

であった記録となっている。

「初茸」と記述される食用のきのこの出荷記録として見れば、ハツタケ (*Lactarius hatsudake*) の発生を証言する

記録と言えるであろう。

また、贈答の記録としては前掲書9ページの解説文中、「…旗本吉田氏の…(略)…芋・きのこなどへの礼などである。」に該当する文書である。これらの礼状の差出人名に見える「須藤角左衛門」は、同書の「犢橋村古文書目録」が文書作成年代順の表組みであるのを利用して同人名義の文書を探すと、凡そ嘉永(1848～)乃至慶応年間(～1868)幕末期の旗本吉田家側(地頭所)連絡担当者ということになる。この6件の書状の年代もその範囲のものと推定される。

前掲書の先行研究成果が文書名に「礼状」と注記しているのを踏襲して紹介しているが、直接「御礼」や「感謝」といった現代人のわれわれが想起するような文字は書かれていない。これら地頭所の役人を通じて他の事務連絡も記載されることもある公的な書状の中では、領主として献上された物を受け取ったまでという立場を決して崩してはいない。しかし、「大好物」、「御満悦」といった心情を明かして破格の謝意が記されていたり、少量しか集められない状況にもかかわらずよく送ってくれたと労わる記述が見えたりする。「殿様」(吉田収庵)の大好物ゆえに翌年の収穫時期にはまた必ず送ってほしいという意思の現れと見てまちがいなからう。ただこの初茸贈答の記録は明治へ時代が移って途絶えてしまった。

本稿の資料紹介をきっかけに、町野家文書をはじめ他の古文書も解読しよう、保存し活用しようという機運が盛り上がることを著者らは願っている。

### 引用文献

千葉市史編纂委員会編 1997『千葉市史 史料編8 近世』678頁

## Hatsutake Mushroom as Gifts from a Village Headman (Nanushi) in Shimosa in the Late Edo Period, Described in Old Documents

Hiromi Tagawa<sup>1)</sup> and Satoru Takahashi<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup>Chiba University Library

1-33 Yayoicho, Inage-ku, Chiba 263-8522, Japan

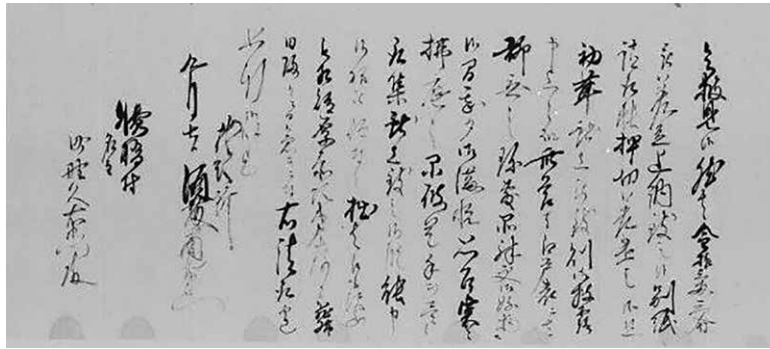
<sup>2)</sup>Boso-no-Mura

1028 Ryukakuji, Sakae-machi, Imba-gun, Chiba 270-1506, Japan

<sup>1)</sup>E-mail: tagawah@office.chiba-u.jp

<sup>2)</sup>E-mail: stakahashi@b-mura.org

In order to show usefulness of digitalized archive of old documents, an example of “Machino family documents”, recorded in the late Edo Period, is presented. Digitalized archive of the documents is available at the Chiba University Academic Resource Collections (c-arc). The old documents introduced in this article describe the harvest of the mushroom “Hatsutake” (*Lactarius hatsudake*) in the Kotehashi Village in Shimosa (presently Chiba City) and usage as gift to a bannerman (Hatamoto) in the local, and provide information on the usage of “Hatsutake” at that time. Some old documents contain information on the natural sciences. We expect that such documents will be utilized in the field of natural sciences in the future.

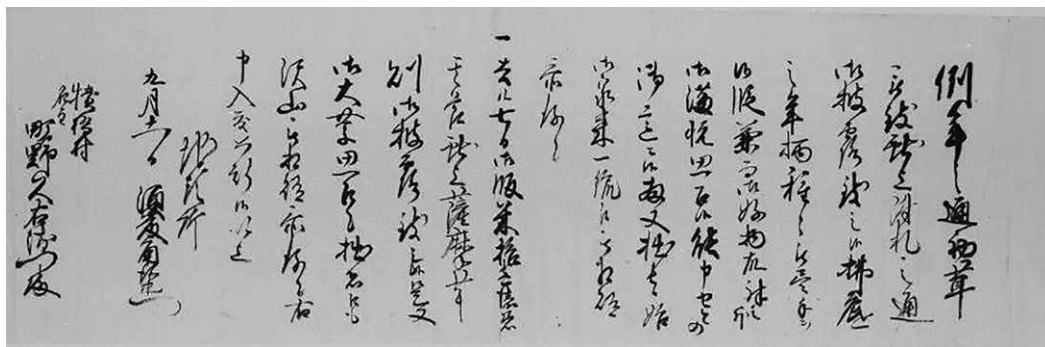


(1)a.

「(包紙)  
吉田収庵内  
須藤角左衛門  
名主  
町野久右衛門殿」

令被見候、然者金拾三兩三分被差送上納致し候、別紙請取帳押切差遣申候、且初茸献上被致則御披露申上候処此節者江戸表二者聊無之珍敷品殊更御好物二候間甚夕御満悦思召美二  
 払底之品彼是手ヲ尽シ取集献上致し候段能申候様被仰付候、拙者江も沢山被相賄厚忝次第存申候、飛脚日帰り二而急き二付右請取而已如斯候以上  
 地頭所  
 九月七日 須藤角左衛門  
 犢橋村  
 名主  
 町野久右衛門殿

(1)b.



(2)a.

例年之通初茸被致献上附札之通御披露致し候払底之年柄程々被尽手ヲ候段兼而御好物故殊之外御満悦思召候、能申セとの御意二候扱又拙者始御家来一統江被相賄忝存候  
 一  
 去ル七日御飯米拾壹俵着其節献上薩摩芋則御披露致し候是又御大慶思召申候、拙者江も沢山被相賄忝存候、右申入度如斯候、以上  
 地頭所  
 九月十一日 須藤角左衛門  
 犢橋村  
 名主  
 町野久右衛門殿  
 猶以御飯米之節薩摩芋四俵差出可給候、尤御親類分御頼二候間壹俵二付代何程と申義直段付可被申越候御飯米積出シ之都合二而藤崎村二而其村方二而も都合次第差出可給候以上

(2)b.

図1.

(1) [補-25] (金一三兩余請取、初茸献上につき礼状 包紙付き)、地頭所 須藤角左衛門、犢橋村名主町野久右衛門、九月七日 (a. 古文書画像、b. 翻刻)。

(2) [補-52] (初茸・薩摩芋献上につき礼、ほか書状)、地頭所 須藤角左衛門、犢橋村名主町野久右衛門、九月十一日 (a. 古文書画像、b. 翻刻)。

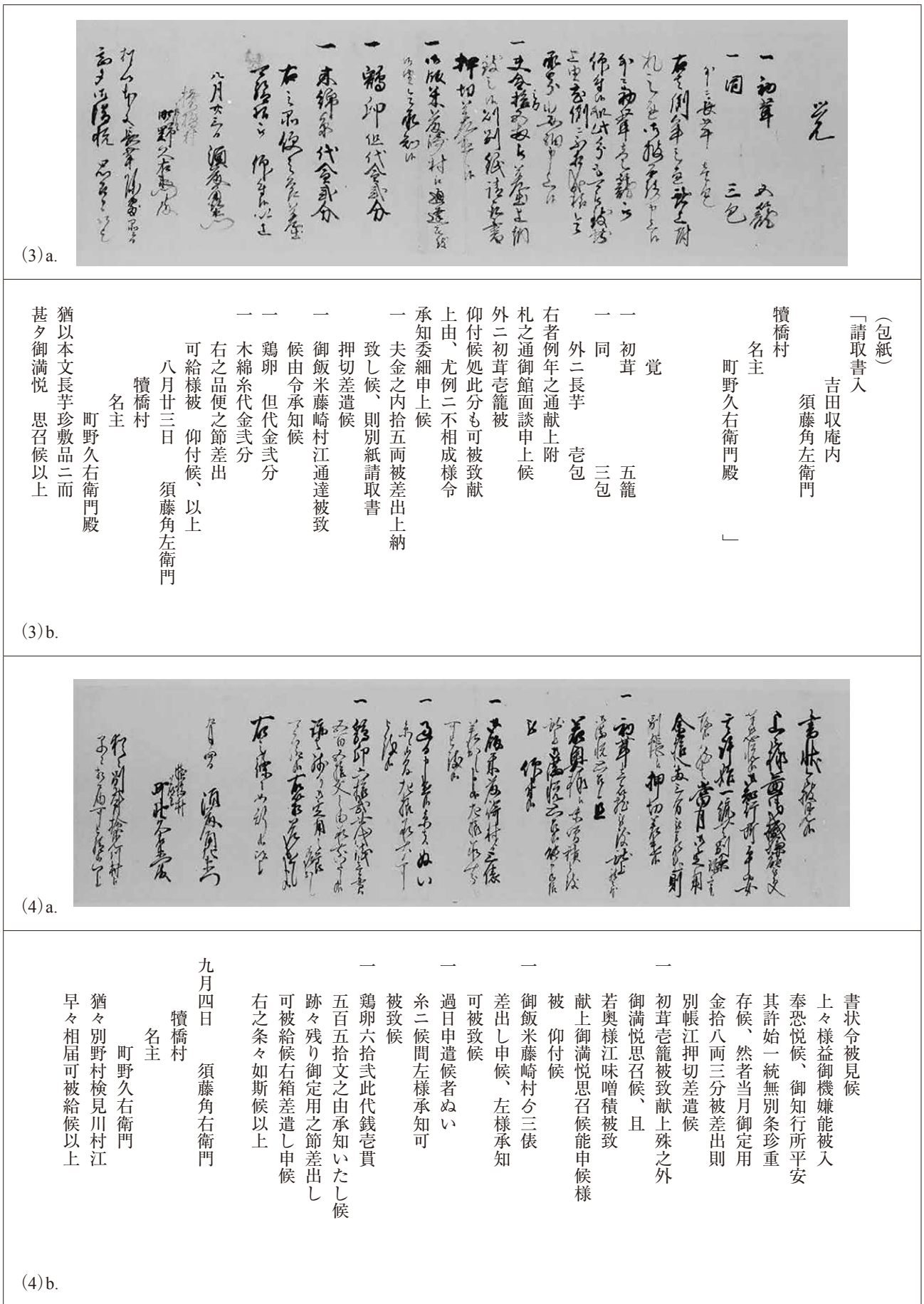


図2.  
 (3) 〔補-55-1〕 覚（初茸ほか献上品々請取 包紙付き）、吉田収庵内 須藤角左衛門、犢橋村名主町野久右衛門、八月廿三日（a. 古文書画像、b. 翻刻）。  
 (4) 〔補-55-2〕（定用金上納初茸献上、飯米差上などにつき書状）、須藤角左衛門、犢橋村名主町野久右衛門、九月四日（a. 古文書画像、b. 翻刻）。

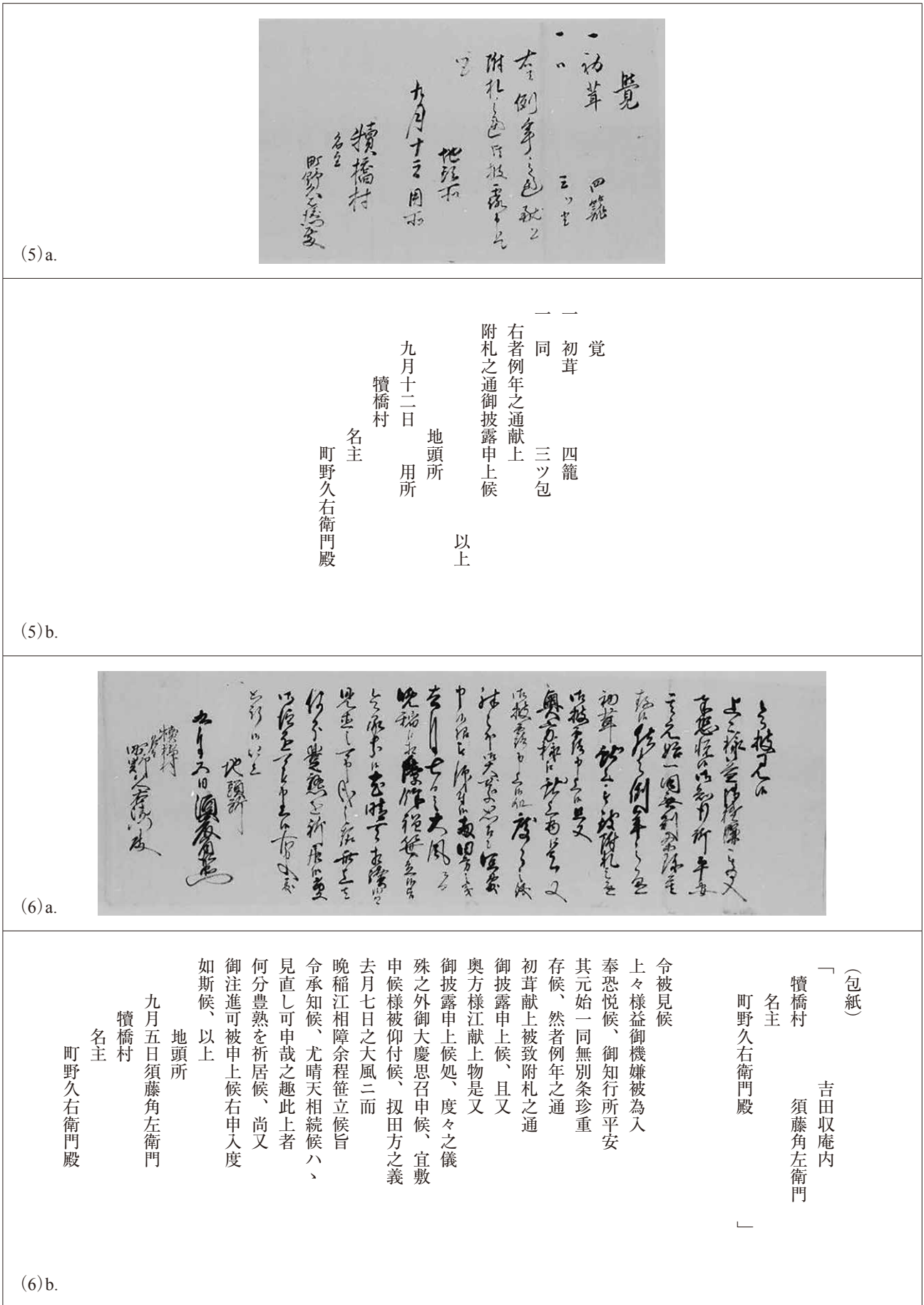


図3.

(5) [補-70] 覚 (初茸請取), 地頭所用所, 犢橋村名主町野久右衛門, 九月十二日 (a. 古文書画像, b. 翻刻).

(6) [補-86] (初茸ほか献上につき礼状 包紙付き), 地頭所 須藤角左衛門, 犢橋村名主町野久右衛門, 九月五日 (a. 古文書画像, b. 翻刻).